

惟仲・生昌年表(二)

高橋 由記

【凡例】

一、この年表は平中納言惟仲および、その弟・大進生昌の動静を史料等から抜いたものである。原則として惟仲・生昌の名前の記載のあるものは、記事の重要性如何に関わらずすべてを抜き出した。その他、惟仲の妻・繁子、繁子と道兼の子・尊子についても出来る限り年表に取り込んだ。

二、参考資料は次の通りである。

小右記(大日本古記録)・権記(寛弘七年までは「史料纂集」、それ以降は「増補史料大成」)・御堂関白記(大日本古記録)・公卿補任(国史大系)・職事補任(群書類従)・国司補任・藏人補任・弁官補任・日本紀略(国史大系)・扶桑略記(国史大系)・百鍊抄(国史大系)・本朝世紀(国史大系)・一代要記(改訂史料集覧)・平安遺文・類聚符宣抄(国史大系)・正倉院文書・石清水文書・東大寺別当次第(群書類従)・栄花物語(新編日本古典文学全集)・平安朝歌合大成

また、どの資料によったのかは、原文の最後に載せた。惟仲・生昌等の記述の部分には、私に傍線を施した。

三、日記等の史料に関しては原文をそのまま載せた。また、同日の資料もすべて載せた。縮小文字・割注は、すべて縮小文字とした。

四、閏月は○数字とした。たとえば閏一月は①、閏十二月は⑫と記載した。

五、異体字は通行字体になおした。

六、年表に関しては、左上に通しのページ番号を付けた。(二)は、通し番号10～20(正暦五年～長徳四年)である。

正曆五 (九九四)	一条	51	8 28	……次權中納言(源)時中卿、中納言(行力)(源)伊勢 伏座。被定臨時仁王會之事。【本朝世紀】 卿有疑、(藤原)道親卿有疑、參議藤原懷忠卿 失矣、(藤原)實資卿有疑、(平)惟仲卿有疑、(藤 原)誠信朝臣等、左中弁(源)扶義朝臣等參入、各立 標下、次內弁(召脫力)右弁大平朝臣、祇唯斜行、入 自殿軒廊、上自東階、立內弁後、置敷、內弁授軍命、 平朝臣取之、揖而退下自東階、立軒廊間(一脱力)、 次內弁出就列、次平朝臣出南階、更西折、置敷、就宣 命版、宣制一段、列者再拜、右(左)中弁扶義一拜、 歸也。【權記】	9 8	左大弁。權守如元。【公卿補任】 左大弁 平惟仲 右中弁 高階信順 右大弁 源扶義 左少弁 藤原為任 左中弁 藤原忠輔 右少弁 藤原為任 權左中弁 源俊賢 【卒官補任】	9 27	〇四九〇八 紀伊國石垣上莊立券文案 〇兩野山文藝文經堂所藏・正嘉應文書	9 27	判 同任年九月廿七日【平安遺文】 〇三六〇 紀伊國在田郡司解案。〇兩野山文書 在田郡司解 申請 國符事 臺希 被藏心任旧例、為不輸租田、停止檢田使人勘 右大弁(平惟仲)宅所領石垣上下下野并參舊 莊田畠狀 右、被去年八月廿八日國符今月廿七日到來称、彼宅今 月十三日據今日到來称、件庄已為格前之庄、或時親王 之領、或時為求相之庄、加以卿相以下五品以上、代々 相伝、世々領掌、然而專不付徵租稅、永為不輸租田之 庄、是則山川嶮難之地、公田不相交之故也、年來之間 、國檢田使卒違先例、入檢庄内、雖注作田、本自依在 不輸租田、無官物之弁、為庄有煩、為國無益、仍牒送 如件、乞循察狀、因准先例、永為不輸租田庄、停國使 之人檢、得領知之便宜者、仍召問書生并在地郡司、本 自不輸租田庄也(者脱力)、仍所仰如件、郡宣承知、 任先例、永為不輸租田庄、停止檢田使人勘、不得違失 者、所請如件、以解、 正曆五年九月廿七日 追捕使丹波掾郡務使紀在朝	8 28 道兼右大臣 伊周内大臣 道賴權大納言 道長權大納言 (主主)
--------------	----	----	---------	---	--------	--	---------	--	---------	---	---

1731

7 24 道長・伊周伏座
7 27 道長と隆家の従
者闘争
8 2 隆家の従者、道
長の従者を殺害

長徳二 (九九六)

一条

53

3	10	○	庚戌、参内、藤大納言(顯光)・左大弁(平惟仲)在陣、定季御説役闕請、余参女院、右大臣、中納言懷忠、参議時光・惟仲・輔正 <small>教三</small> 年(藤原公任・藤原誠信・俊實同参、廿八講了、……【小右記】このころ内裏には、藤三位といふ人の腹に栗田殿の御女おはすれど、殿の、姫君おはせぬをいみじきことに思いたりしかど、この御事をばことに知りあつかはせたまはざりしに、むげにおとなびたまふれば、三位思ひたちて内に参らせたまつりたまふ。三位は九条殿の御女といはれたまふれば、この殿ばらもやむごとなきものに思したれば、かやうに思したまふらせたまふにも、にくからぬことにて、はかなきことなどいも左大臣殿用意しきこえたまへり。
4	1		(賀茂斎院御前駈定) 辛未、……此間大外記(中愿)致時期臣伝右大臣消息云縁院(藤原詮子)御綏参入之間不能定御殿前駈、可定奏者、左大弁(平惟仲)・右兵衛督(源俊賢)候陣、召大外記(中愿)致時仰可奉御説文書等之由、……召文書・硯等、左大弁執筆【小右記】 丁丑、……今日左「右」大臣候宣奏、 <small>今年初奏也</small> 左衛門督(藤原懷忠)・左大弁(平惟仲)・左兵衛督(藤原公任)奉宣權大夫(藤原誠信)・右兵衛督(源俊賢)参入、擬階事左衛門督行之、其事以前退出、觀察行事参議事令奏聞、右兵衛督有勸許、【小右記】 甲午、……將軍・余着陣座、良久之後右大臣着陣、先是於御前有餘目、ノ在、大員取副除目於着陣、以左大弁惟仲令清書、配流雜事等委右大將「顯光」、此間諸卿依仰入陣中、除目清「書脱」右大將奏聞、召式部丞賜下名、召大内記者名朝臣、仰配流宣命事……【小右記】
6	5		甲戌、参内、右大臣(藤原道長)以下皆悉参、只左大弁(平)惟仲一人不参、今日宣奏、……【小右記】 任權中納言(宣命。四「五」十三才)。【公卿補任】 從三位。任權中納言元右大弁参議【一代要記】 戊午、……中納言(源)時中答「奏」宣命草、左大臣正二位(藤原)道長、 <small>今日親正位、後有参右大臣下賜也</small> 右大臣從二位(藤原)顯光、大納言時中、々納言余、 <small>平</small> 惟仲、 <small>平</small> 納言(平)惟仲、参議(藤原)忠輔、其後奏清書、左衛門督(藤原)懷忠・余・参議(菅原)輔正・惟仲、(藤原)公任・(藤原)誠信・(源)扶義・(藤原)齊信・(源)俊實出無數政門着外弁座、……次宣命使就宣命版、宣制一段、大納言時中、々納言余・權中納言惟仲不拜、依任人也、自余再拜、又宣制一段如初、 <small>雖云不具、宣命使復列、皇親親類、任口「人外」外次第退出、時中卿離中納</small>

4	1	伊周私に太元帥法を修すと申告	4	24	伊周大幸權帥、左遷	5	1	定子落飾	7	20	道長左大臣大納言藤原顯光	右大臣中納言源時中大納言	權中納言藤原美資中納言	参議平惟仲權中納言	大納言藤原公季女義子入内
---	---	----------------	---	----	-----------	---	---	------	---	----	--------------	--------------	-------------	-----------	--------------

長徳二 (九九六)

一条

53

7	20	⑦	9	8	7	8	8	17	8	10	8	10	13	10	13	言標也【加】大納口【言】標、惟仲加中納言標、……【小右記】 戊午。任大臣宣命。以右大臣道長朝臣為左大臣。叙正二位。以大納言顯光朝臣為右大臣。以中納言時中朝臣為大納言。以參議実賢。惟中為中納言。以忠輔朝臣為參議。……【日本紀略】 丁丑、……今日見參上々(衍カ)達部、左右大臣、大納言(藤原)公季・(源)時中、々納言(藤原)道綱・(藤原)懷忠・(平)惟仲、參議輔正・大貳(藤原)有國三位(源)扶義・忠輔・(藤原)誠信・(源)俊賢、【小右記】 乙巳、參左符【府】(藤原道長)、依有御消息、被餓大貳、有佰錢事、臨晚有和奇、藤中納言(道綱)・左武衛(藤原公任)・左大匡【弁】(平惟仲)・宰相中將(藤原齊信)・勘解由良官(源俊賢)等也、非參議不説和歌、【小右記】 庚戌着座。【公卿補任】 (駒奉) 乙午【卯】、藤大納言・源大納言・左衛門督(藤原懷忠)・平中納言(惟仲)・左兵衛督(藤原公任)・左大弁(源扶義)・右大弁(藤原忠輔)・宰相中將・勘解由良官候陣、昨日駒奉不取、今日可分取……仍諸卿相引着之、 平中納言當座之後、未着外記、不奉教之前參内、近代不具、仍傍題指示親筆字、余云、不可着延福門牌、候其言不獲、……【小右記】 (伊周秘カ二入京中宮御所二隠ル) 乙巳、早朝或云、諸陣奏衛門罪全聞令【云々力】、依物忌令修禳誦、勘解由良官(源俊賢)同車參内、候殿上、小選詣左符【府】(藤原道長)直應、卿相会矣、權帥(藤原伊周)密々京上、隱居中宮(藤原定子)云々、自夜部有其聞令【云々】、且差右衛門權佐(源)孝道被申事由於后宮、已被奏無実之趣、孝道朝臣以下使官人等候彼后宮、差左衛門尉(藤原)季雅・志(劍)為信遣幡【播】 【广、被実檢權帥之有無、又帥京上告言既有其人、近則中宮大進(平)生昌、是左符【府】所被談説也、丑刻許左右大臣(道長・顯光)・左大將(藤原公季)・藤中納言(懷忠)・右衛門督(藤原公任)參入云々、他卿相今日參入、余午刻計退出、但触事由於左大弁、縁堅固物忌、入夜勘解由良官来云、被召問生昌云々、權帥出家云々、定不慥、可実檢之由有被加仰、季雅等事、攝万使未帰来之間、使官人等可護后宮云々、中宮今月當御庭期、外帥先日令奏出家之由、被改官符【符】、而尚猶不剃頭云々、誰【誰カ】譌之甚歟、【小右記】
---	----	---	---	---	---	---	---	----	---	----	---	----	----	----	----	--

8	9	義子女御	10	7	陸家入京を請う	10	8	伊周入京發覺	10	10	伊周本府に送る
---	---	------	----	---	---------	----	---	--------	----	----	---------

[illegible]

長徳三
(元九七)

一条

54

何短罪潤赦令在〔者力〕、可召上者、左大臣召大外記
千愿致時朝臣、令勘申召流人使之例、諸卿乘燭後退
出、【小右記】
庚戌、……東帶詣祭使〔所脱力〕、源大納言〔時中〕、
民部卿・平中納言・大蔵卿〔藤原時光〕・修理大夫・右
衛門督・左大弁・右大弁〔藤原忠純〕・宰相中将・勘解
由長官会合、三献之〔後脱力〕給還祿、申剋計各分散
、……【小右記】
丁巳。今夜。強盜卅余人人中納言惟仲家。降。日本
紀略】
〔群盗平惟仲第及び藤原朝経第二入心〕
戊午、去夜群盗入平中納言〔惟仲〕家及閑院〔藤原朝経〕
以書状送納言及右少升朝廷朝臣、入平納言家之強盗、
先入彼家西対及堂等、欲入寢屋之間人々相戦、仍不入
臥内云々、太不便事也、朝廷朝臣来云、入閑院之強盗
取女房衣装等、退去之後僅聞其由、執続松者二人走入
捕女等剥取衣装、不到老若寢所、近日強盗不憚貴处、
可謂未代、【小右記】
丁卯、……参内、左衛門督同不参入云々、平中納言〔
惟仲〕依長有〔斎方〕不参、勘解由〔長脱〕官〔源俊賢〕
〔依病不参入云々、……〕【小右記】
丁卯、……權納言受惟仲傳仲經正【権記】
〔金峰山参詣の平惟仲に藏人所牒を給ふ〕
末一起参内、臨時御詔経菜願、行幸壬子皇・藏人失、行幸広業、
申起鐘饗、衆僧参上、廿一ロ、大覺聖天師 平中納言参金峯
山、申所牒、応職往還之由也、……【権記】
〔上卿の不参を奏せざるに依りて外記一人に急狀を進
めしむ〕
平中納言〔惟仲〕令奏云、依去十六日仰、彼旦及申剋上
卿不参由、不含奏案内之言、……〔林〕相問申大納言源
朝臣只今可参由、仍相待之間、時刻推移、遂不参入、
于時惟仲参入、仍不令奏事由也者、……【権記】
……大臣被仰云、内総豊前介藤原輔藤、々字日間晝落
、掖仰召名上卿令付、即依、勅赴陣仰平中納言、【権
記】
〔重陽節会〕
辛未、参内、重陽節会云々、……未終出御、内弁右大
臣〔藤原頼光〕、内大臣〔藤原公季〕已下就標、大納言〔通〕時
中、〔藤原〕遠綱〔藤原〕經盛、中納言〔藤原〕時光、〔平〕賴朝、参議〔藤原〕兼正
・藤原)敏實〔藤原)公任・藤原)忠純〔藤原)春成、右大臣就標、上
達部参上後昇自殿、……中納言惟仲云、以本人可令説
乎者、左大臣猶予持疑、余云、件事非無前例、……【
小右記】
重陽宴也、御装束如常、……依 勅仰平中納言〔惟仲〕
又仰来十五日丹生、貴布祓使可立之由、即宣司誠所司
之由、……【権記】
壬辰、可御南殿云々、未終参入、左右内三相国〔藤原
道長・同頼光・同公季〕、大納言〔藤原〕懷忠、中納言〔
平〕惟仲、参議〔菅原〕輔正・〔藤原〕誠信・〔藤原〕公任

5 21 隆家入京
7 5 公季内大臣
道綱大納言

191

7 10 前権大納言源重
光墓
7 25 中宮権大夫（参議）源扶義卒

